



発行日：平成27年11月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第30回川部会WGを開催しました！

11月11日（水曜日）に第30回川部会WGを開催し、矢作古川分派施設と矢作古川頭首工の2ヶ所を見学しました。

日時：平成27年11月11日（木）13:30～16:00
場所：矢作古川分派施設
矢作古川頭首工
参加者：19名（事務局含む）



◆主な活動内容

1. 矢作古川分派施設（施工中）を見学し、構造についてお話をききました



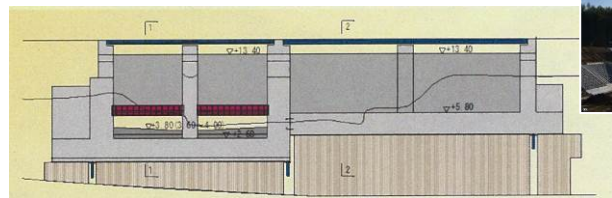
■矢作古川分派施設の目的と工事進捗状況

- H12年9月東海豪雨やH20年8月豪雨など過去の洪水時には、矢作古川流入支川で浸水被害が多発した。
- 過去の洪水実績を踏まえ矢作古川への合流支川の改修を行うため、適切に分派（計画分派量200m³/s）する施設として、矢作古川分派施設を整備している。
- 現在の工事状況は、分派施設本体のコンクリート打設は完了し、水路や護岸の工事が主体となっている。



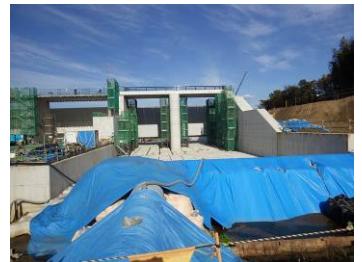
■矢作古川分派施設の構造について

- ゲート下のコンクリート底盤にパイプが通っており、流量の少ない時や伏流水を下流に流す構造になっている。底盤は中心に向かって斜めになっており（比高差40cm程度）、常に水深が確保できる構造となっている。
- 工事による埋め立てを実施するにあたって仮水路を造った。仮水路の通水前と使用後の埋立時には、市民との協働で、かいぼり調査を実施した。河道内に生息していた淡水魚や水生生物は捕獲し下流へリリースした。準絶滅危惧種のシロネ群落については適切な場所に移植した。
- 仮水路は1年半ほど使用していたが、貴重種やスジシマドジョウ、イシガメ、カニ、タイワンシジミなど短期間に多種多様な生物が生息していた。
- 構造物の施工前には腐植土層の地盤改良を実施した。
- 工場団地からの雨水の排水施設は、工場への埃の侵入を防ぐなどの環境上の観点や景観を守るため、推進工法で進めている。



豊橋河川事務所より、矢作古川分派施設の整備目的・構造・工事状況について説明がありました。この内容について、意見交換を行いました。

- ブロックの下に隙間があるのではなく、パイプがあるのか。
 - ▶ パイプが通っている。護床ブロックの下は、水出し防止剤で処理されている。
- 護床ブロックの高さは、元河床と同程度か。
 - ▶ そうである。基本的には海拔 3.8m 程度としている。
- ゲートは流量で調節するのか。
 - ▶ 機械操作による調節はしない。現時点では、整備計画規模 1/50 を対象に施工しているが、将来的に基本方針規模 1/150 の整備を実施する際には河床をさらに掘削する必要がある。その際にゲートを下ろし流量を調整する機能を持たせている。
- 東海豪雨実績をみると分派推定量としては 590m³/s の流下能力は持っているようだ。なぜ 200m³/s とするのか。
 - ▶ 過去の実績から広田川、安藤川等の支川での氾濫を防止するため、支川改修後の流入を考慮して 200m³/s と設定している。
- 東海豪雨時の流量はどの程度だったのか。
 - ▶ 流量は 4,500m³/s、分派 600m³/s 程度である。
 - ▶ 豪雨は上流のみで下流ではそれほど大きな降雨はなかった。
- 流量はどのようにチェックしているのか。
 - ▶ 下流に県の観測点（小島橋）がある。本川との水位差についての観測点も今後設定する予定である。
- 管理はすべて国土交通省となるのか。
 - ▶ 施工区域はすべて県管理区間であるが、協定により施設本体と護床工までを直轄管理とし、下流の護岸は愛知県県の管理としている。
- 護床工の境にある板を設置している目的は何か。
 - ▶ 護床ブロックの上に水が流れない場合の水位を想定して設置している。
- 天端の高さは堤防や橋と同じか。
 - ▶ 同じ高さになっている。現状では、天端は管理用通路として整備している。
- 仮水路にはカワヒバリガイはいたか。
 - ▶ カワヒバリガイなど外来種はみられなかった。
- 地盤改良時には、杭は使用しなかったのか。
 - ▶ 改良の必要な範囲の凹凸が大きいので、杭ではなくエコポラム工法で固めながら土壌改良していく方法を取った。N値が 30 以下の範囲については、すべて地盤改良している。
- 高水敷程度まで水がくるのは、年に何回程度あるのか。
 - ▶ 3~5 年に 1 回程度である。



2. 矢作古川頭首工（魚道設置予定地）を見学しました



■ 矢作古川頭首工周辺について

- 現状ではアユ等の遡上が難しく、魚道工事を実施中である。工事の詳細説明は来年度早々を予定している。
- 広田川にもカワヒバリガイが生息していた。



今後の流域圏懇談会の予定



■ 第 31 回川部会 WG（本川モデル）

日時：平成 27 年 1 月 18 日（金）13：30～16：00 場所：豊田市職員会館 2 階第 1 会議室
 内容：白浜地区調査結果の報告について
 豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の報告



◆ お問合せ ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
 TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

* 矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

